

911.3
八
坤

龍  
潛  
苞  
蕉  
涉

坤











や〜ぬ辰あま〜一 俗語をさるも力く並多に似たり〜  
まをさる俗語をさる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜  
似たり〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜

た〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜

と〜さる〜さる〜

さ〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜

と所〜さある人さ〜俗語も形〜一 俗語をさるも力く並多に似たり〜  
並多のさる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜  
よ〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜  
おひ〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜

お〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜

花〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜

と〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜  
よ〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜

種〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜

と〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜  
肉〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜

と〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜

と〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜

と〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜さる〜







と終て乾坤言行言ふと此二おしつとまき  
一泉九鬼貫車武水、のほりてと白鳥修庵を海を流して  
着の先たの望極乃本もの白鳥守終りてまはは白鳥  
他とてさる形——とて

白鳥守終りて海を流して 鬼貫

と他とて、海の水を流して海を流して海を流して海を流して  
太さるとまはは白鳥守終りて海を流して海を流して海を流して

白鳥守終りて海を流して 鬼貫

と他とて、海の水を流して海を流して海を流して海を流して

白鳥守終りて海を流して 鬼貫

と他とて、海の水を流して海を流して海を流して海を流して  
白鳥守終りて海を流して海を流して海を流して海を流して  
海を流して海を流して海を流して海を流して海を流して

白鳥守終りて海を流して 鬼貫

と他とて、海の水を流して海を流して海を流して海を流して  
白鳥守終りて海を流して海を流して海を流して海を流して

白鳥守終りて海を流して 鬼貫

と他とて、海の水を流して海を流して海を流して海を流して

白鳥守終りて海を流して 鬼貫

と他とて、海の水を流して海を流して海を流して海を流して  
白鳥守終りて海を流して海を流して海を流して海を流して

白鳥守終りて海を流して 鬼貫











吾白死魂をささりてそのしをあらうりて一白死風情あり  
すてアム人の世をなれりて終年の夢をぬきあらしむ  
ことあとやあそ日下山一りり志うふさありの比里圃  
事あとのあは

ぬを這ふ藤丸の中は 蝶の身 沾圃

とつる白

つりて人をいふ出さる 比里圃

と阿らうは白死を夢によと着よつたてすうり一よあの  
日は白死にかしはくはくをきて感合をよ一ぬを這ふ  
藤丸うち死蟻ハけのあそもある一そのらあとしむる

船カ巻はとんやうを別世とあらうり白し白のぬ  
も這ふ藤の情のあそをけこと別世をさうよ一白死  
形一死

史魁の火つけて後まをまつすを 馬寛

とその世を場子て一風情をあらうり白し白をさる  
あとりをたてよ一白をさるあか白死は長くおれあそ  
のらあはけをさるあかりは白

一石ふえり 一かうとを死系 沾圃

と阿らうは白死を夢によと着よつたてすうり一よあの  
燈の火つけその一白をさるあか白死は長くおれあそ











江戸 舟

にのりくもなりの美空 嵐雲

とつた子

あんなにかきまわすおぼろの風 杉風

とつた子ふつと〜〜〜のうらむ目もたぬ

立寄る浮世と暮れ〜〜〜のうらむ目もたぬ

病家とてんか〜〜〜のうらむ目もたぬ

〜〜〜のうらむ目もたぬ

美人のよ祈禱とてんか〜〜〜のうらむ目もたぬ

〜〜〜のうらむ目もたぬ

〜〜〜のうらむ目もたぬ

〜〜〜のうらむ目もたぬ

〜〜〜のうらむ目もたぬ

〜〜〜のうらむ目もたぬ

〜〜〜のうらむ目もたぬ

〜〜〜のうらむ目もたぬ

〜〜〜のうらむ目もたぬ

〜〜〜のうらむ目もたぬ

〜〜〜のうらむ目もたぬ

〜〜〜のうらむ目もたぬ











風神を撰者のらに在野をうしりては兼ふふと一  
 廿一代素の何ハ号北気東小やうきなる風神しまふ古を  
 古今——そ代り北風神をおうりきしははくそは  
 新をそをそん神のこほくさるるあくさるる人ちうそ  
 兼ふふ云うくはそ神まきあのみともうき云とあうそ  
 他神とても同類あま——志うきう真まの玉はまのあま  
 玉千瓦の多れま——とたる春にぬのゆ——とたるそ  
 兼ふふのりあま人の句ききくは兼ふふ神とく  
 兼ふふ一神極くくはそは風神とくはたふふ  
 兼ふふと名うた神くは兼ふふとあま——ゆきく

兼ふふと神詩とくふあうそ人の上を以て二と子ふも  
 也向者うそん撰者言そはかめらうそ——そをうそ——  
 それをうそ——とくは神の口言人の長々分けては  
 併なる句をうそ——とおまもあうそ神まうそ——とあうそ  
 句はよううそ——うそよわうそとおまうそあうそ——上品の句  
 まんのやうそ——ゆうそよあうそぬと撰下——清ら神とくは  
 波はうゆうきうあうそて句をそあうそ——うそ——とあうそ  
 兼ふふとくは兼ふふ人のあま兼ふふ他神一神のあま  
 ——そは兼ふふ神とくは兼ふふ句もものそは神の兼ふふ  
 兼ふふとくは兼ふふの句をそくは兼ふふ兼ふふ神の併ふそ























と語りしこと交考ハ其ノ上英才シカク志ヲ遂テ上ノ事ハ其ノ上

謙ニ色蒸ハ乃於茲シテ其ノ事モクテノ後也其ノ事モクテノ事

多ク其ノ事ト性後ノ事あり然レモ多ク其ノ事モクテノ事

其文ハ又長湯丸山ノ記あり是レ其ノ事モクテノ事

一 亦七日ハ此ノ山ノ事トシテ其ノ事モクテノ事

其ノ事モクテノ事トシテ其ノ事モクテノ事

其ノ事モクテノ事トシテ其ノ事モクテノ事



時傳の事とおひつる人の上りていふ事と時傳の事とおひつる  
 老人の上りていふ事と時傳の事とおひつる人の上りていふ事と  
 中に玉の事と時傳の事とおひつる人の上りていふ事と  
 といふ事と時傳の事とおひつる人の上りていふ事と  
 の事とおひつる人の上りていふ事と時傳の事とおひつる  
 乃時傳の事とおひつる人の上りていふ事と時傳の事とおひつる  
 事とおひつる人の上りていふ事と時傳の事とおひつる  
 一箇一箇の事とおひつる人の上りていふ事と時傳の事とおひつる  
 上りていふ事と時傳の事とおひつる人の上りていふ事と

時傳の事とおひつる人の上りていふ事と時傳の事とおひつる  
 事とおひつる人の上りていふ事と時傳の事とおひつる  
 一箇一箇の事とおひつる人の上りていふ事と時傳の事とおひつる  
 上りていふ事と時傳の事とおひつる人の上りていふ事と



保の息の... 何れに... 何れに...

おうてう話め六美とつふをとおもて... 中かくいそそ名取...

福とあそり... 係多そそ... かくんよる...

てあうらんおをいふをとおう... 差はんたうよあそ風橋を











